

## 地域看護学方法論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座、看護学部		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単 位 数	1単位		

### ・学習方針（講義概要等）

地域における看護活動を行うための方法である家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援および地区組織活動の育成について、その目的、対象および技術を学ぶとともに、企画、実施および評価について学修する。これにより、対象者の特性に応じた支援方法を考える能力を修得する。その上で、地域における医療、保健、福祉、住民組織およびNPO等との関係を理解し、地域包括ケアシステムを構築するための知識を学ぶ。

### ・教育成果（アウトカム）

地域における保健活動方法を学修しそれぞれの特徴を理解することにより、地域住民の健康課題に対応した活動方法を考えることができる。また、地域の健康課題を解決するための地域包括ケアシステムに構築について理解できる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：4.7.8

### ・到達目標（SBO）

1. 個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について説明できる。
2. 地域や家族等、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解できる。
3. 個の特性に応じて生活することの重要性を理解できる。
4. 対象者の強み（ストレンクス）を引き出し、健康増進、自立の促進等を目指した看護を実践できる。
5. 対象者の行動変容に対する理解、関心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な看護を実践できる。
6. 心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診等のシステムとその活用について説明できる。
7. 心身の健康障害に対する正しい理解への啓発活動について説明できる。
8. 情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/25	木	1	地域包括ケア講座	岩淵 光子 特任准教授	<p>地域の健康課題に応じた支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在または顕在する健康問題を構造的にとらえ、予防活動として取り組むことの重要性を説明できる</li> <li>・個人・家族への支援方法・技術の特性を説明できる</li> <li>・生活基盤としての地区/小地域を支援する目的を説明できる</li> </ul>
5/9	木	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>家庭訪問の目的、対象、技術とプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問の目的、対象、支援技術を説明できる（訪問看護との違い）</li> <li>・家庭訪問のプロセスを説明できる</li> </ul>
5/17	金	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>健康相談の目的、対象、技術とプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康相談の目的、対象、支援技術を説明できる</li> <li>・健康相談のプロセスを説明できる</li> <li>・相談者が抱えている問題の程度、種類、相談者の力量等にアセスメントを行い、支援計画を立案できる</li> </ul>
5/30	木	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>健康診査の目的、対象、企画と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診査の目的、対象、支援技術を説明できる（健診と検診の違い）</li> <li>・健康診査のプロセスを説明できる</li> <li>・評価結果より、継続支援の必要性の判断を検討できる</li> </ul>
6/7	金	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>健康教育の目的、対象、企画と評価①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育の目的、対象を説明できる</li> <li>・学習目的に対応し、教育方法、教育技術（講義、実習、実験、演習等）の組み合わせを説明できる</li> <li>・健康教育のプロセスを説明できる</li> </ul>

6/13	木	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>グループ支援の特性、発展過程、支援者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ支援の特性を説明できる</li> <li>・グループの発展過程を説明できる（セルフヘルプグループも含む）</li> <li>・グループの発展過程に応じた支援者の役割を説明できる</li> </ul>
6/17	月	4	看護学部	大澤 扶佐子 非常勤講師	<p>住民組織・地区組織活動の目的と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民組織・地区組織を育成する目的と意義について説明できる</li> <li>・住民組織・地区組織活動への育成支援のプロセスと方法を説明できる</li> <li>・地区/小地域の人々の健康課題解決のために必要な地域の住民組織との協働について説明できる</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築を理解できる</li> </ul>
6/18	火	4	地域包括ケア講座	岩淵 光子 特任准教授	<p>健康教育の目的、対象、企画と評価②（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに割り振られたテーマを通して、対象のニーズを把握し、アセスメントと行い健康教育の企画立案ができる</li> </ul>

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版	荒賀直子、他編	インターメディカル	2017
参	新版 保健師業務要覧 第3版 2019版	井伊久美子、他編	日本看護協会出版会	2019

・成績評価方法

定期試験 80%および課題レポート・グループワークのまとめ 20%の合計 100%で評価する。

・特記事項・その他

**【事前事後学修の具体的内容及び時間】**

シラバスに記載されている授業内容及び到達目標を確認し予習した上で授業に臨むこと。また講義中に提示した予習ポイント・課題を学修して臨むこと。事後学修は、本科目指定の教科書だけでなく、授業内容に関連した履修済の教科書や配布資料、ノート等を用い復習すること。適宜、講義中に事前学修の発表時間を設ける。事前事後学修時間は各回最低 30 分を要する。

グループワークではそれぞれのテーマに沿って事前学修を行い臨むこと。グループワークを行う授業では事前学修は最低 1 時間を要する。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

- ・ 授業に課題を課す場合は、期日までに Webclass で回収し、授業等でフィードバックする。
- ・ レスポンスカード等については、次の授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援

助産師（別表 2）：助産診断・技術学

看護師（別表 3）：統合分野 在宅看護論

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影